

高松城跡天守台石垣解体の現況報告について

1 天守台石垣の解体修理について

(1)事業工程

	17	18 年度				19 年度				20 年度				21~
ヤード設置														
玉藻廟解体														
発掘調査														
石垣解体														
修理方法検討														
石垣修理														

(2)石垣解体工事の概要

工 事 名：史跡高松城跡天守台石垣解体工事

工事期間：平成 19 年 9 月 28 日～平成 20 年 3 月 25 日

解体面積：1,540 m²

請負業者：四国産業株式会社

(3)解体状況

1) 準備工

9 月 28 日から開始

足場設置・石材番付・墨打・外観調査・各種調査準備



写真1 番付・墨打・外観調査状況

20 cm以上の石材を番付

50 cmメッシュで墨打，合端にも墨打



写真2 ひずみ計設置状況

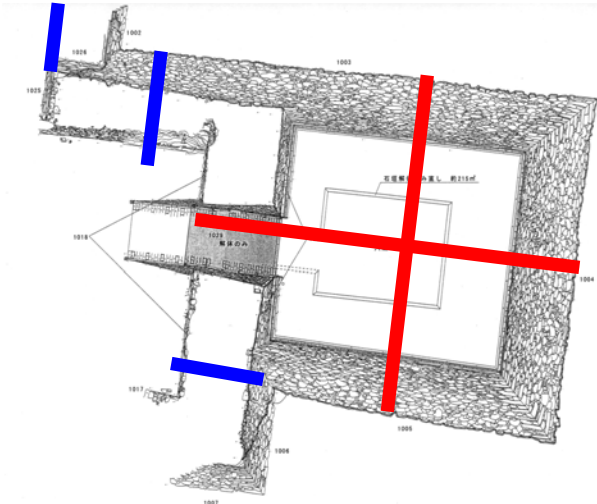
石垣解体に伴う石自体の伸縮を計測
荷重の方向を調査

2) 解体工

11月12日から石垣解体実施

石垣石材1段(概ね高さ60cm)ごとに下記工程を繰り返し(全23段)

トレンチ掘削



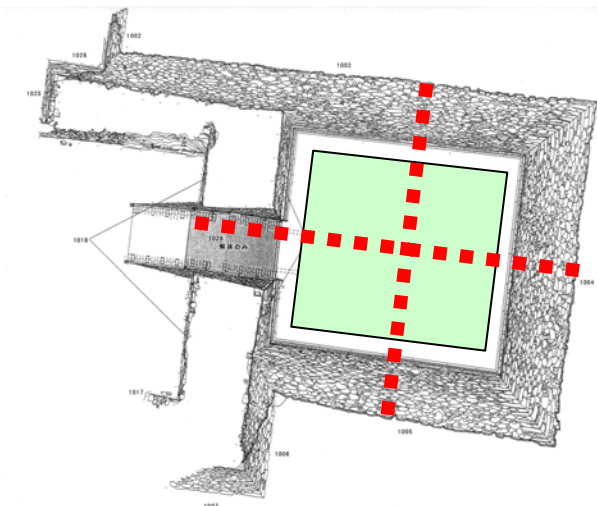
下層確認のため十字に掘削
の工程中に断面図を作成
10段目以下は青色部分にもトレンチ



写真3 トレンチ掘削状況

溝状に掘削し、下部の地層を確認

盛土掘削



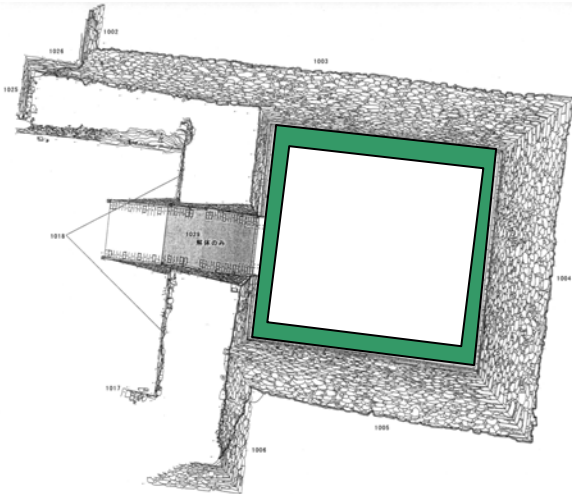
バックホーにより薄く平らに掘削
盛土中の遺構・遺物の有無確認
盛土の土質試験も実施



写真4 盛土掘削状況

トレンチ部分を残して盛土を掘削
手前では土層断面図を作成中

栗石掘削

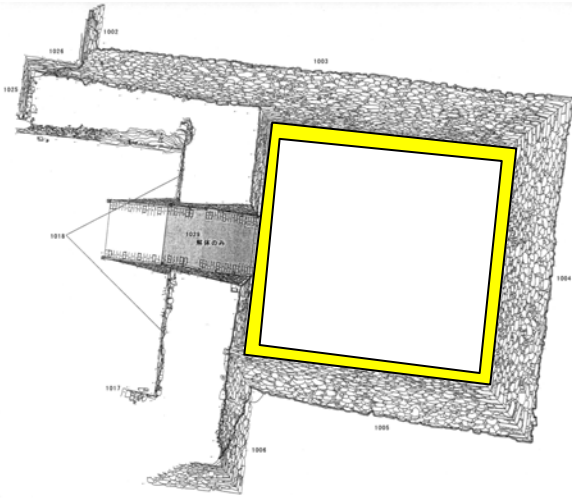


バックホーにより石垣裏栗石層掘削
飼石・押石等の有無の調査
石材の粒径・材質等の割合の調査



写真5 栗石掘削状況

石垣解体



～ 工程中に石材の外観調査
クレーンにより石材1石ごと解体
解体時に石材間のアタリなどの調査
石材の産地調査も実施
1段解体ごとクレーンによる写真撮影



写真6 栗石サンプル調査状況
1 m²中の栗石の粒径・形状を調査



写真7 石垣解体状況

(4)調査成果

1) 出土柱の年代・材質の特定

昨年度の発掘調査で出土した柱を放射性炭素C14年代測定法(AMS法)により年代測定を実施したところ、1630～1660年頃に伐採された可能性が高いということが判明した。このため、松平頼重による改築(1647～1670年)時に伐採された柱であると考えられる。また、材質はツガであることも判明した。柱は今後の公開のため保存処理を実施中である。

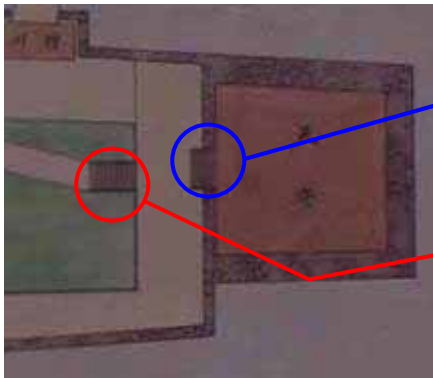


写真8 柱検出状況

直径 30 cm 余り、長さ 70 cm の柱

2) 下部階段の検出

昨年度の発掘調査では天守地下へ入る階段の上部を検出していたが、今年度の発掘調査において絵図どおり下部の階段を検出した。



「旧高松御城全図」



写真9 階段検出状況

3) スベリの検出

天守台の東面において、盛土に段差が生じ、東側が約 14 cm 沈下しているスベリと呼ばれる状況を検出した。天守台石垣の東面は大きいハラミが見られ、危険性が指摘されていたが、今回の発見により内部の盛土においても同様に危険性が指摘できる。ハラミ部分まで発掘調査をしないと断言できないが、スベリとハラミには因果関係があると考えられる。



写真10 スベリ検出状況

4) 生駒家々紋刻印の検出

南西隅の石材において生駒家の家紋を刻印したものを確認した。高松城の石垣において見つかったのは初めてである。



写真11 刻印検出状況

家紋を簡略化している

(5) 市民への公表

解体修理工事に伴う各段階で天守台見学会を開催しており、これまで3回開催し、2月23日に第4回目を計画している。今後も石垣解体中や修理中に見学会を開催する予定である。

見学会開催状況

見学日	見学内容等
第1回(H18.7.29) 参加者 330名	埋め立てた内堀から天守台石垣の危険な状態を見学 解体修理工事の必要性と全体スケジュールを説明
第2回(H19.1.7) 参加者 300名	天守地下入口および上面の検出状況、墨書、刻印石などを見学 発掘調査の途中経過や調査スケジュールを説明
第3回(H19.3.4) 参加者 600名	天守地下の完掘状況を見学 礎石等が検出され、天守の柱の位置が判明したことを説明
第4回(H20.2.23) 開催予定	石垣解体工事を間近で見学 工事概要の説明と天守台の構築方法などを説明する予定

屋嶋城跡城門遺構発掘調査の現況報告について

1 屋嶋城跡における城門遺構の位置について

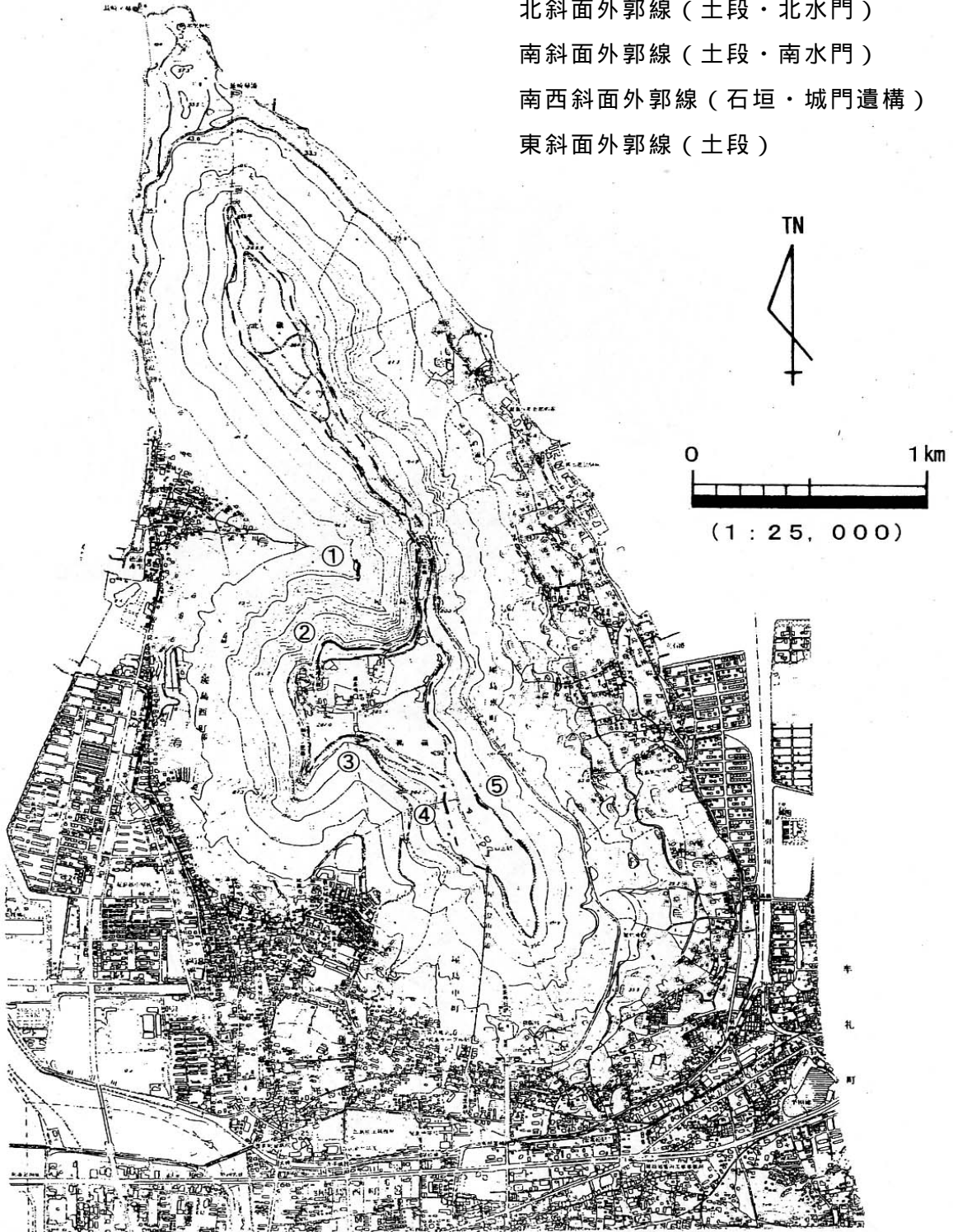
浦生石塁

北斜面外郭線（土段・北水門）

南斜面外郭線（土段・南水門）

南西斜面外郭線（石垣・城門遺構）

東斜面外郭線（土段）



第1図 屋嶋城跡 遺構位置図

2 城門遺構の整備について

ア 全体計画について

目的 保存と公開

崩壊の危機にある城門遺構の石垣を解体・復元することにより，遺構の保存を図る。さらに，見学が可能な環境整備を行い，土塁等の復元や説明板の設置により，城門遺構を公開するものである。

期間

平成19年度～26年度

高松市の取組み

高松市では，現在策定中の新しい総合計画の中で，まちづくり戦略計画の重点取り組み事業の一つとしての屋嶋城跡の整備を取り上げており，今後も積極的に整備を進めていく予定である。

整備方法

《保存》石垣の解体および復元，土塁や石列の復元

《公開》進入路の造成，説明板やベンチ等の設置

学校教育・生涯学習との連携，文化財との関連付け

年度別の整備事業計画

年度	整備計画内容
19	外郭線石垣前面掘削，石垣測量
20	作業用進入路等造成工事，南側石垣一部解体作業
21	南側石垣解体作業
22	南側石垣等復元作業
23	北側石垣等解体作業
24	北側石垣等解体作業
25	北側石垣等復元作業
26	土塁一部復元・環境整備
27	第1期整備事業報告書作成作業

イ 平成20年度における計画について

石垣解体工事に伴う付帯工事

クレーン車用の仮設進入路を設置する。土のう袋で地面の凹凸を平滑化した上で鉄板を敷設する。石垣の解体終了後に、鉄板と土のう袋を撤去する。

北側背面石垣の調査について

平成18年度に行った調査では石垣の最北端の状況が確認できていないので、北端の状況を確認する。

3 基礎調査事業の進捗状況と今後の予定について

ア 分布調査

これまでの調査状況

5月に北嶺西側斜面の分布調査を実施した。西斜面の多くで安山岩の断崖が連続し、人工構造物が認められないことを再確認した。

今後の予定について

これから3月にかけて北嶺東斜面および北嶺と南嶺を繋ぐ尾根の両側の分布調査を実施する予定である。

屋嶋城跡城門復元予想図

